

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第459号 2011. 6/10

社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
 URL: http://www.ejp.or.jp FAX 03(3541)4324
 発行人 高橋 廣

目 次	次
第43回通常総会開催される..... 1	事務局レポート
再発防止の進め方(四季)..... 4	(第314回理事会議事録要約) 6
事務局レポート	製品技術部会第3回総会開催..... 7
(第43回通常総会議事録要約)..... 5	

第43回 通常総会が開催されました

～大野泰昭新会長へバトンタッチ～



齋藤前会長

平成23年5月18日(水)青空と緑のもと上野精養軒において当工業協会の第43回通常総会が開催されました。当日は、正会員、賛助会員の皆様はじめ大勢のご来賓、関連業界団体、技能検定及び教育訓練の先生方さらに報道関係の皆様方に出席戴きました。

会議に先立ち、この総会で最後の議長を務める齋藤会長から以下の挨拶がありました。

「まずは、この度の東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。千年に一度といわれたこの度の大地震と大津波そして原発事故と続き、予測をはるかに超えた甚大な被害

を我々にもたらしました。特に未だ解決の見えない福島第一原発は、日本だけでなく全世界に大きな衝撃を与え、大地震・大津波の国難にさらに追い討ちをかけています。またこの大震災は効率生産の基盤とも言うべきサプライチェーンの寸断をもたらし、電子部品や稀少部品工場の被災は自動車産業をはじめ日本はもとより世界のくもの作り>に大きな影響を及ぼしました。これを機にくもの作り>の地図が大きく変化するのではと多くの



総会会議場

方が危惧しております。

顧客が帰ってこないことも覚悟して他社の部品を紹介した例が日経新聞記事にありました。部品や素材で広がる「日本外し」の懸念、海外企業のサプライチェーンから一度外された注文は二度と戻りません。特に我々プラスチック成形業界においては、多くの製品が低付加価値である上、コストに占める材料や電力料のウエートが高く、低収益の中での厳しい競争環境中での経営が続いていました。そんな中でこれからは更に電力の制約や電力料金の動向・不安定な中東情勢の影響による原材料価格の高騰さらに為替等を含めた様々な影響を考えたとき内外格差の拡大傾向は避けられません。格差の拡大は我々業界を更なる空洞化に導くもので、国内の<もの作り>が窮地に陥ることになります。現政権には迅速な政策実行を期待するものですが、個々の企業が知恵と工夫で対応策を講じこの難局に立向い頑張っていたいただきたいと思っております

この様に先々不透明な厳しい状況下で本日の総会を迎えたわけですが、今年もまた多くの仲間が退会を余儀なくされ期末の会員数は、正会員190社、賛助会員68社、5団体（441社）という会員構成になっています。前山下会長より引継ぎ7年間、皆様の暖かいご支援とご協力の元で会長を務めさせていただきましたが、私にとって本日が最後の総会となりました。

次期会長には現副会長としてずっと私をサポートして戴きました株式会社石黒製作所の大野社長にお願いすることが先の理事会で決定しておりますのでご了解の程宜しくお願い申し上げます。思い起こせば7年前、訳の分からぬ57歳の若僧が多くの大先輩を差置いて、会長を引き受けさせていただきました。この間、当業界は原料価格の高騰、リーマンショック、グローバル化への急展開などで空洞化が進み受注不振や売上不振など厳しい経営環境の連続でありました。これらの厳しさは会員減少を招くなど、協会活動においても私の力不足で皆様のご希望に添えるような活動ができず大変申し訳なく存じております。そんな中においても皆様には心強いご支援とご協力を賜り、何とか務めを果して参ることができました。心より御礼と感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

最後になりますが 本日の議事がスムーズにご審議いただけますようお願い申し上げます私の挨拶とさせていただきます」

今総会の議案は以下の通りでした。

第1号議案 平成22年度事業報告承認の件

第2号議案 平成22年度決算報告承認の件

第3号議案 平成23年度事業計画案審議の件

第4号議案 平成23年度収支予算案審議の件

上記議案は、全て原案どおり承認され、終了しました。内容については第43回通常総会議案書を御覧下さい。

※今回は役員改選はなく、会長の交代のみです。

総会后開催された懇親会において、大野新会長からは以下の通り就任最初の挨拶を申し上げます。



大野新会長

「本日はお忙しい中、当協会の総会並びに懇親会に関東経済産業局の勝本課長様はじめ多くのご来賓並びに会員の皆様方に出席を賜り心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、先ほどの総会において諸先輩方をさしおいて、若輩の私が、会長をお引き受けすることになりましたが、この責任ある大役をどこまで果たせることが出来るか危惧しております。しかしお引き受けした以上は精一杯、責任をまっとうしていきたいと思っておりますので何卒皆様にはご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます次第です。

ご承知のように東日本大震災では大手材料メーカー様においても、多大の被害を受けました。特に大手企業の中でも信越化学工業様が210億の損失を出されたとのこと。

当協会の会員の中でも多大な被害を受けた会社が32社にのほりました。特に、宮城県・福島県・岩手県など東北3県さらに茨城県や関東各県内のプラスチック事業所において、大変な被害にあわれた多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、中部日本プラスチック工業協会様と西日本プラスチック工業協会様からは多額の見舞金を頂戴し、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

会員の皆様と話をしていると 東日本大震災の影響で急激に売上高が減少している話も多数聞いております。私ども工業協会は 大半が中小企業の集まりであります。行政の面からも応援をぜひともお願いしたいと考えております。

先ほど総会でも触れましたように、平成23年度

重点事業につきましては、期の半ばでもあり齋藤前会長のご意思を継ぎ事業展開していきたいと思っております。

- ① 会員増強運動の展開
- ② 能力開発・技術向上等教育事業の推進
- ③ 活性化を目指して支部の統合と活動強化
- ④ プラスチック製品業界のPR・地位向上を図る
- ⑤ 震災関連の支援・施策情報の取得と紹介

これらを中心に事業展開をしてまいりますが支部の統合と活動強化につきましては 支部長会の開催を行い会員の皆様の意見をスピーディに反映できるようにしていきたいと思っております。プラスチック製品業界のPR・地位向上を図ることにつきましては 各会員様の自社商品開発のお手伝いや特許の取得のアドバイスを行っていきたくて考えております。

震災関連の支援・施設情報の取得と紹介につきましては第一弾といたしまして東日本プラスチック製品工業会の被災された会員様には小額ですが義援金を出させていただきました。

最後になりましたが 東日本大震災がおきたあとの日経新聞に以下の記事が出ておりました。ちょうど50年前、1961年ケネディ大統領就任の演説が掲載されており、そこには、「国が、あなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが、国のために何ができるか、問うて欲しい」

今、私達にとって一番大事な言葉ではないでしょうか。

有意義で、元気で、活力ある東日本プラスチック製品工業協会にするためにも本日ご臨席の皆様方のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます私の挨拶といたします。ご静聴ありがとうございます」

ご来賓からは、代表して関東経済産業局・製造産業課長の勝本光久様より、下記のご挨拶を戴きました。

「本日は、第43回通常総会のご盛会おめでとうございます。日頃から皆様方の技術・技能向上や経営近代化など業界発展の取り組みに敬意を表するとともに、経済産業施策にご理解ご協力を戴いていることにつきまして厚く感謝申し上げます。

この度会長を退任された齋藤様におかれましては、関東経済産業局施策に多大のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

今回、平成23年度サポインの申込みが5月10日に締め切りになりましたが、プラスチック成形加工が分野別申請件数でトップ3でした。これも齋



勝本関東経済局課長様

藤前会長のご配慮で施策のPRの機会を戴いた賜物と確信しています。大野新会長におかれても引き続き当局施策へのご理解ご協力をお願いいたします。

この度の東日本大震災では、震災に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。震災後2度ほど現地へ入りましたが、特に津波のすさまじさを実感した次第です。当局管内の経済状況についても東日本大震災の影響により悪化と大変厳しい判断をしています。

モノ作りの活動結果を示す鉱工業生産指数は急激に低下(△18.6%)、生産設備の稼働状況は徐々に回復しつつも、原材料・部品の入手難等により生産への影響が懸念されています。一方で、震災後の出来事を勘案して日本のモノ作りが世界を牽引していること、震災地域と他地域のモノ作りグループの間で信頼関係のもとに連携が生まれていること等いろいろなことが確認でき、日本のモノづくりの底力を実感した次第です。やはりこれからのモノ作りは「元気とチャレンジとつながり」が復旧復興のキーワードだと個人的に考えています。

福島第一原発の関係で、皆様に様々なご不便をお掛けしておりますが、まずは夏場の電力需給ピークを乗切するために節電のお願いをしなければなりません。何卒、ご協力をお願い申し上げます。当局と致しましても、震災で直接・間接に影響を受けている企業様向けの支援策をはじめ、足下の経済状況を注視しつつ、タイムリーな施策展開を図ってまいりたい。併せて、今後震災復興のためのさらなる補正予算等も検討しているところであり皆様の忌憚ないご意見ご要望をお聞かせいただければ幸いです。



乾杯をする山下会長

続いて、当工業協会 山下勝意名誉会長の乾杯の発声により祝宴が始まりました。

参加者は、例年より少し少なめでしたが、あちらこちらに情報交換の輪が出来ました。18時15分、大塚副会長の中締め挨拶と三本締めにてお開きとなりました。

再発防止の進め方(四季)

大きな事故や障害がひとたび発生すると、責任者は必ずといって良いほど「再発防止を致します」と宣言する。

しかしマスコミをにぎわした事故において、その再発防止策が報道されることは少ない、これは事故・障害の事実報道よりも再発防止策のニュース価値は高くないと考えられていることもあろうが、本当の再発防止は非常に難しいからでもある。

設計を例にとると、四半世紀前では設計ミスを行った担当者に「問題はどこにあったか？」と聞くと「後工程がしっかり検査をしていない」と平気で言う者がいたり、また一昔前では「再発防止はできたか？」との問いに「図面変更をしたので大丈夫です」との回答が返ってきたりした。同一図面を用い、後工程も同一作業を行う場合に同一不具合は発生しないが、「図面変更」は再発防止にはならない。

なぜなら相似設計で寸法を変更したり、後工程で作業手順等を変更した場合、問題発生時の“真の原因”を取り除いておかないと同様の不具合を再発させる可能性があるからである。

近年は品質保証や品質管理の考えが浸透し、上記の様な回答は無いであろうが、再発防止に必須であるところの“真の原因”を見つけだすに当たり注意すべきポイントを以下に示す。

1. 課題を見極め絞り込む。→例えば「不良が減らない」場合、どの製品、どの工程、どの季節、どの作業員、と課題を絞り込む。
2. 見つけた課題を的確かつ具体的に文章で表現する。→いわゆる検査漏れの場合、「検査漏れ」と表現すると犯人は作業員にいくが、検査基準がない場合や、有っても教育されていない場合も有るため「検査されていない」と表現する。
3. 先入観を排除し現時点で判明している事実のみを表現する。→分析者の思いこみ等の偏りの排除。

4. 過去の経験則や知識にとらわれず論理的に筋道を立てて原因を考える。→経験からありきたりの結論を導き出すことの排除。
5. 2つ以上の要因は分解して複数の文章とし、一つずつの要因に対して分析を進める。
6. なぜなぜなぜを繰り返し分析する。
7. 「設備」「人」「方法」「材料」「情報」など“分析の観点”をチェックリストで準備することは分析作業の標準化、教育の面から有効ではあるが、多くの事故・障害は複数の原因が重なり合って発生するものであり、そのリストに留まらず事象に合わせより広い観点から分析する。
8. 個人の思考過程、製造工程の順序や繋がりを踏まえて分析する。
9. 「…意識」「…不十分」等の意味が広すぎる言葉の使用を避ける。→「問題意識」ではなく、「問題があるか否か判断できない」「問題であることに気づいていない」とする。「…不十分」は、例えば「…しなかった」「…できなかった」「…しづらかった」とより具体化する。
10. 主語を入れて分析対象を明確にする。→個人や組織への遠慮を排除し各部門の管理内容や役割分担の問題点を発見できるようにする。
11. 全担当者を参加させかつ責めない→上記に関連して、再発防止活動は個人の過失を責めるのではなく、組織・仕組みの問題点を見つけだすものであることを良く理解させ、事故・障害に関係する全ての担当者を参加させて原因究明を行うことが最重要である。

幾ら活動目的を説明されても、問われる担当者は決して良い気持ちは抱かないし、その担当者の気持ちに遠慮して、あえて本人抜きで上司や同僚だけで原因究明を行っても真実は見えてこない。

(案山子)

事務局レポート

■第43回通常総会 議事録要約

1. 日 時 平成23年 5月18日(水)
16時00分～16時40分
2. 場 所 上野精養軒 3階 桜の間
東京都台東区上野公園 4番58号
3. 出席者
出席正会員 129名 (うち委任状 79名)
正会員総数 195名
定刻、佐藤副会長の司会により、社団法人東日本プラスチック製品工業協会第43回通常総会の開会が宣言され、齋藤会長の挨拶につづいて、司会より、本総会出席会員の定足数は過半数を超えており(66%)、定款第28条の規定により本会が有効に成立している旨の報告がなされた。次に、定款第27条の規定により会長が本総会の議長の任に当たる旨を説明し、異議なく全会一致で承認された後、会長が議長席に就いた。
4. 議事録署名人選出
議長より議事録署名人の選出を諮ったところ、議長一任となり下記の両氏を指名し両人もこれを了承した。
議事録署名人 工藤 郁雄 丸工化学(株)
 〃 佐々木清彦 佐々木合成(株)
5. 議 事
第1号議案 平成22年度事業報告承認の件
第2号議案 平成22年度決算報告承認の件
議長より、第1号、第2号議案は関連があることから一括して説明をお願いしたい旨を議場に諮り、了承を得た。大井副会長より、総会資料に基づいて、会員の状況ならびに会議の開催、個別事業についての報告と支部会開催状況等の報告をし、さらに平成22年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表について説明をした。
続いて、古澤政弘監事が以下のとおり監査の報告がなされた。
議長より、第1号、2号議案の承認可否につ

いて、議場に諮ったところ異議なく全会一致で承認された。

さらに、平成22年度当期収支差額、金6,561,857円の処分方法は、全額を次期繰越収支差額として処分することについて議場に諮ったところ、異議なく承認された。

第3号議案 平成23年度事業計画(案)審議の件
第4号議案 平成23年度収支予算(案)審議の件
議長は、第3号、第4号議案について、関連があることから一括して説明をお願いする旨の了承を得た後、大井副会長より以下のとおり説明した。

平成23年度重点事業は、「①会員増強運動の展開、②能力開発・技能向上等教育事業の推進、③活性化を目指して支部の統合と活動の強化、④プラスチック製品業界のPR、地位向上を図る、⑤震災関連の支援・施策情報の取得と紹介」とする旨を説明し、提案した。

つづいて平成23年度収支予算案の事業総額、62,349,176円の内訳について総会資料に基づき一般会計の大科目毎に説明した。また、科目の詳細と部会別会計(部会・委員会)については、ご一読願うことで了承を得た。

議長より、第3号、第4号議案の可否を議場に諮ったところ、原案どおり異議なく全会一致で承認された。

予定された議案がすべて終了したことから、齋藤議長より、先の第313回理事会にて会長の交代が全会一致で承認され、第8代会長には永年に亘り副会長として私を支え続けていただいた大野泰昭氏が選出された事を報告し、7年間の会長職が無事務め上げることができた御礼を述べるとともに、山下勝意氏に引続き名誉会長に推薦したい旨を議場に諮ったところ、全会一致で承認された。

大野新会長より、齋藤前会長の後を受け、若輩ながら大任をお引受けすることになりましたが、不慣れな点が多々あるため皆様のご指導ご協力を宜しくお願いしたい旨挨拶した。

以上、16時40分、議長は、第43回の通常総会の閉会を宣した。

■第314回理事会 議事録

1. 日 時 平成23年5月18日(水)
15時00分～15時45分
2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」
東京都台東区上野公園4-58
電話 03-3821-2181

3. 出席者

齋藤 森作	大野 泰昭	大井 英一
大塚 一郎	佐藤 昭	池下 龍
鈴木 幸雄	竹下 富男	嶋田 修二
川野 幸博	白石 恵一	平塚 隆文
大川 哲郎	谷 和雄	長島 勝敏
滝口 裕	飯高 一郎	福田 晴通
植田 好司	安達 七郎	肥後 武重
腰越 稔	小松 幹也	関根 忠
櫻山 徹	森下 誠一	武田 久徳
森 幸博	高橋 廣	

以上出席29名、委任状10名(理事総数 39名)
古澤 政弘 (以上監事1名)

4. 会長挨拶

本日は私の議長として最後の理事会です。7年間の長期間に亘り会長を努めさせて頂きましたが、思うような活動もできず大変申し訳なく思っています。皆様の常に暖かいご支援ご協力に励まされ 今日まで大役を果すことができました。心より感謝と御礼を申し上げます。本当に有難うございました。今後は1理事として大野新会長を側面からサポートして参りたいと思います。

また山下名誉会長には引続き名誉会長をお願いし了解載っています。

東日本大震災から2ヶ月が過ぎましたが 原発事故をはじめ 復興の兆しが思うように見えてきておりません。そうした中 先日、大口電力需要家向15%の節電が電気事業法27条の元での政府方針が決まりました。また500KW未満の小口需要家も強制力はありませんがそれらに沿った節電対策が求められるようです。それらに加えてここに来ての原料値上や円高などこれから先々の厳しさだけが目につく様相となってきました。国も補正予算の中で、間接的な震災被災の中小企業救済施策も幾つかあるようで



すが、協会としまして積極的に情報収集と情報発信をしてもらい、これらの有効活用を含め個々の企業が知恵を出し合い一丸となりこの難局と戦い乗り越えて載きたいと思えます。

本日はこの後通常総会であり、役員各位の円滑な審議への協力をお願いし挨拶とした。

5. 議事録署名人

議長は、定款第31条2項により、鈴木幸雄理事、関根 忠理事を議事録署名人に指名し了承された。

6. 議 事

議題1. 経過報告

- (1) 役員会等の開催
- 4月21日 第313回理事会
東日本年金基金会館
 - 5月12, 13日 平成22年度決算監査
東日本協会 会議室
- (2) 部会・委員会の開催
- ① 能力開発推進委員会
 - 4月21～24日 新入社員教育講座(学科、実技)
板橋校
 - 4月29日～5月1日 検定実技講習(2級)
板橋校
 - 5月13日 新入社員教育講座(計測コース)
ミットヨ計測学院
 - ② 製品技術部会
 - 4月27日 総 会 八重洲富士屋ホテル
- (3) 協同組合
- 4月21日 第8回通常総会
東日本年金基金会館
- (4) その他
- 4月28日～5月12日～以下専務理事持参
災害見舞金 1団体11企業(うち2企業辞退)
配布金額 計205万円

以上について議長が議場に諮ったところ、特に意見が無く了承された。

議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 入会の部

賛助会員 2社

- ① 会社名 日本エム・ケー・エス(株)
所在地 東京都杉並区成田東5-17-13
代表者 マイケル・ワイズ
業種 多変量解析ソフトウェア
- ② 会社名 (株)テラバイト
所在地 東京都文京区湯島3-10-7
代表者 小森 禎
業種 CAEソリューション

議題3. 第43回通常総会 役割分担等の件

配布資料(総会進行・役割分担案、総会出席者一覧、総会議案書<第1号議案～第4号議案の内容>)のとおり。

(その他報告・連絡事項)

- ・還付金の件：6月振込予定

・連合会通常総会

日時：平成23年6月9日(木)15時～

会場：名古屋国際ホテル

名古屋市中区錦3-23-3

地下鉄・栄駅下車3分

※翌10日→懇親ゴルフ(スプリングフィールドGC、多治見市)

・次回の理事会開催について

納涼会を兼ねた下記第315回理事会を予定

日時：平成23年7月14日(木)16時～17時

会場：八重洲富士屋ホテル

・経産省：「夏期の電力需給対策について」

配布資料3-4

・経産省：「23年度第一次補正予算概要」

配布資料5-6

中小企業資金繰り対策、自家発電設備支援、輸出品放射線量の検査補助等

以上をもって、第314回理事会を終了し、議長は15時45分、理事会の閉会を宣した。

【製品技術部会の第3回通常総会が開催】

製品技術部会の第3回総会が、平成23年4月27日(水)午後、八重洲富士屋ホテル3階「紅葉の間」で開催されました。会員総数43に対し、35名が参加(うち委任状20)、定刻に滝口部会長が議長に就き、以下の議案を審議した。

第1号議案	平成22年度事業報告の件
第2号議案	平成22年度決算報告の件
第3号議案	平成23年度事業計画の件
第4号議案	平成23年度収支予算の件

上記第1～4号議案は原案通り可決承認されました。

そのあと議長より、東日本大震災の義援金として当部会より金5万円を本部へ拠出し、本部において他部会分もまとめた上、被災会員へ見舞金を出させていただく件、及びその財源は予備費の内から出したい旨提案があった。この件について議長は議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

以上をもって通常総会の全ての審議を終了したので、議長は16時閉会を宣した。

総会終了後、16時～17時まで以下の講演会を実施しました。

演題 「射出成形シミュレーションソフト」
～樹脂流動解析～

講師 日本ユニシス(株)チーフ・スペシャリスト
木村 貴浩氏、
(株)テラバイト 辻 和志MG



17時からは、講師先生方も加わり、総会懇親会を兼ねて情報交換を行いました。